

令和6年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターかきのみ

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価
評価日時： 令和 7年 2 月 5 日(水) 9 :30 ~11 :00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

「じぶんがすき みんながすき じぶんできめる みんなときめる」
一人一人が主体的に、そしてお互いを認め合い、共に育つことを大切にします。

**【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】**

1. 毎月のカンファレンスでは、子どもの発達について「発達の指標」を基に職員間で話し合いを重ねることで、職員一人ひとりが自発的で質の高い保育実践を目指します。
2. 来園した親子や地域の方に笑顔で挨拶をするだけでなく、支援ひろばを中心に、園全体で地域支援という枠組みで、職員一人ひとりが子育て支援について考え提案する等できることを行います。また地域の方、保護者の方と連携し、園の子どもたちが小さいながらも地域の一員であることに気づき、つながりの大切さ、あたたかさが伝わる保育を展開します。
3. 「むすぶ」
人と人、園と地域、それら結びつきの大切さを子どもたちにどう伝えていくかを考え計画し、教育・保育の中で実践します。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	・職員が目に入るところにグランドデザインや目標が貼られていて、いつでも確認することができる環境である一方、目には入るが重点目標の意味を自分の中に落とし込みできていない職員がいた。教育・保育計画においては、昨年同様、重点目標を取り入れた計画を立案、実践を意識することができていた。	3	・園外からはなかなか重点目標は見えにくいところがある。職員が表れを分析して手だてを探り、踏み込んで考えている所が良いと思う。 ・外部からの評価はなかなか難しく、職員の中での評価が3ということであれば、来年度に期待を含めての評価として3ではないかと思う。職員の方々が一生懸命やってくださっている所を評価したい。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	・年間から月案に、月案から週案にと、園児の興味や関心、意欲に合わせた活動ができるよう計画しており、カンファレンス等でも振り返る機会があり職員間で共有もされている。 ・月案を作成するにあたってクラスで話し合い、いろいろな視点を取り入れ、時差出勤の職員でも決められた時間の中でやるべきことを行っている。しかし、環境についてはコーナー遊びという点においてもマンネリ化している様子もあるため、それぞれが意識して遊びの展開を図っていく必要がある。	4	・忙しい日々の中でも園児や教育・保育活動の情報を、職員間で共有・理解する時間を作り出しているところが凄いと感じる。 ・週案や、その日の活動内容をwebを使い保護者が知ることができ、毎日の様子を見られることはありがたく感じる。 ・月案から週案へと、クラス内での話し合いによってしっかりと落とし込みができていていると感じる。 ・保育者が子どもたちと共に楽しむことが大事。子どもが楽しいと思う事を見つけ、計画に落とし込んでいってほしい。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に合わせた、その子らしさが認められる環境が意識されており、職員それぞれが子ども一人ひとりの思いを受け止めようと努めている。 ・好きな遊びややりたいことを自分で選択できる保育スタイルなので自主性が育まれている。 ・こでまり・やまぼうしとの関わりでは、子ども達自身がインクルーシブに、かつ自然に関わることができている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・参観会では、子どもたちが自由に伸び伸びと遊ぶ姿が見られた。 ・かきの子もたちは、とても人懐こく、いつでも声を掛けてくれる。安心できる環境の中で、先生たちに見守られ、伸び伸びと過ごす様子が見られる。 ・帽子の色が違って、一緒に遊んだり話したりする姿が見られた。 ・一人ひとりにしっかりと対応してくれていると感じる。子どもたちが先生に信頼を寄せていることがよく分かる。
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の挨拶や言葉遣い、電話対応については、保護者の立場に立って気持ちの良い接遇を心掛けるようにしていた職員が多く見られた。 ・異年齢保育をしていることで、担当クラス以外の子ども達の姿も見ることができ、日中の様子やエピソードなどを保護者に伝えることができていた。 ・毎日の活動表をはじめ、行事での写真の掲示など、園で提供している教育保育について、子どもの発達を意識した言い回しや写真アングルなど意識することができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・週案、活動表を見て安心しているという声があり、保護者アンケートにも記載されている。 ・保護者に対して気軽に相談できるよう、働き掛けを行っていると感じる。 ・保護者だけでなく、祖父母との交流がもっとあると良い。 ・保育者がいつでも声をかけてくれるので、とてもありがたい。体調に関しても気にかけ、声をかけてくださりありがたく感じる。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・支援ひろばへ移行したことでより開放的になり、地域の方が大勢園に来てくださるようになった。 ・支援ひろばに来てくれた親子が、自分の子どもと同じくらいの年齢の子の姿や様子を実際に見ることができるなど園と関わりが持てている。 ・かきの子の保育者ももっと子育て支援への活動に参加する機会があると良い。(自分の特技を活かしてどの職員も携われる様) 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども、保護者たちへの支援の広がりを感じられる。地域にかきのみが定着していくにつれて、輪が広がっていくと良い。 ・地域のお年寄りの方とも交流がもてるとよいが、昔と違って就労されている方が多く、難しい所もある。 ・地域の小学校へ給食参観に行くなど、交流ができ、子どもたちも小学校のイメージがもてたと思う。
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なもの(楽器や手遊び等)を活かすチャンスがもらえたり、自己研鑽のために研修に参加することができる。 ・アドバイスをもらえたり、自分の意見が言いやすく、お互いにコミュニケーションがとりやすい環境である。 ・保育に対しやりがいを感じるようになり、保育中に実践してみたいことがクラス内で共有しやすい環境である。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事や展示物、子どもの遊ぶ玩具が、先生方の手作りであったり、色々と楽しませてもらっていると感じる。先生方の負担にならない程度で続けていただけると嬉しい。 ・やりがいを持って仕事ができること素晴らしい。 ・意見が言いやすい環境は良い。